



はじめてのちいきふくし活動ノート

～参加してみようよ！ 地域のふれあい・たすけあい活動事例集～



神奈川県
社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

contents

■ かながわマップ	1	
■ 地域福祉活動ってなに？	2	
■ 高齢者などの見守り活動		
事例 1 お互いさま山の根	逗子市	4
事例 2 ふれあい訪問	大和市	5
●言葉の解説		6
■ バリアフリーの活動・障害のある人たちの就労と社会参加の場		
事例 3 出会い・発見・まち探検	秦野市	7
事例 4 パソコンひろば平塚	平塚市	8
事例 5 ともしびショップ Cafe BLUE SEAS	三浦市	9
●身近にあるユニバーサルデザイン		10
■ 世代間の交流やサロン活動		
事例 6 おだわら21世紀少年	小田原市	11
事例 7 共育ひろば	川崎市川崎区	12
事例 8 つるまきほっとタイム	秦野市	13
事例 9 小学生からの手紙つき給食サービス	相模原市	14
■ 地域住民が取り組む福祉バス		
事例 10 共和地区福祉バス	山北町	15
■ 外国籍の人とともに生きるまちづくり		
事例 11 多文化まちづくり工房	横浜市泉区	16
■ 施設のボランティア活動		
事例 12 横須賀基督教社会館	横須賀市	17
●ボランティアってなに？		18
■ 自分の町を良くするしくみ		
事例 13 赤い羽根共同募金	横浜市神奈川区	19
■ あなたはどのタイプ？地域福祉活動チャート		20
■ 県内のボランティアセンター		21

かながわマップ

神奈川県には、個性豊かな 33 の市町村があります。みなさんの住んでいるところにはどんな特徴があるでしょうか？自分の街のいいところ、探してみよう。

●**山北町**
丹沢大山国定公園、丹沢湖が有名
→共和地区福祉バス P15



●**秦野市**
落花生や鶴巻温泉で有名
→出会い・発見・まち探検 P7



→つるまきほっとタイム P13



●**小田原市**
小田原城やかまぼこが有名
→おだわら21世紀少年 P11



●**相模原市**
相模川の 1200 匹ものこいのぼりが有名
→小学生からの手紙つき給食サービス P14



●**大和市**
250 本のミツマタの木が植えられている常泉寺は「お花の寺」として有名
→ふれあい訪問 P5



●**横浜市泉区**
→多文化まちづくり工房 P16



●**横浜市神奈川区**
→赤い羽根共同募金 P19



●**川崎市川崎区**
→共育ひろば P12



●**逗子市**
海岸やマリナーにはマリンスポーツを楽しむ人が大勢訪れる。
→お互いさま山の根 P4



●**平塚市**
湘南平塚七夕祭りやバラの生産で有名
→パソコンひろば P8



●**三浦市**
三浦大根、三崎のまぐろが有名
→ともしびショップ Cafe BLUE SEAS P9



●**横須賀市**
海軍カレー、三笠公園が有名
→横須賀基督教社会館 P17



ち い き ふ く し か つ ど う 地域福祉活動ってなに？

わたしたちの暮らす地域には、子どもから高齢者までのあらゆる世代の人や、障害のある人・ない人、国籍が違う人など、さまざまな人が暮らしています。誰一人として全てが同じ、という人は存在しません。いろいろな人がいて、一緒に暮らしていくことで世の中は動いています。みなさんは暮らしの中で、家族だけでなく、友だち、上級生、下級生、近所の人、先生、親戚など子どもから大人まで毎日多くの人と関わりを持っていますよね。こういった身近な人と関わり合うことで作り出される社会、関わり合いの場、それを「地域社会」と呼びます。



自分以外の人と一緒に何かをしたり、話をしたりすることは、時には面倒なこともあります。多くの喜びや、新しい考え方や物の見方などを教えてくれます。人との関わり合いは、私たちの暮らしをどのようなものにしていくかということにとっても大きな影響を与えます。





「福祉」とは、「幸せ」を意味する言葉です。そこには人との関わり合いがあります。「地域福祉」とは、毎日の暮らしのある地域が、そこに暮らす全ての人にとって安心して生活できる場になるよう、みんなで考えお互い協力して取り組んでいくことを言います。住みやすい地域を作るための課題や問題、また、それを解決するための方法や取り組みも、地域に特色がありさまざまです。そして、そんな問題解決のための実際の取り組みが「地域福祉活動」と呼ばれています。

このリーフレットでは、神奈川県内で取り組まれている地域福祉活動のいくつかを紹介しています。だれもが安心して暮らせるように、地域に暮らす人たちが関わり合いを持ち、一緒に取り組む姿や思いがたくさん集められています。「暮らしの幸せ、豊かさは、みんなの意識や努力、そして何よりも人々の協力によってもたらされていることに気づいてほしい。」そんな願いが込められています。

ぜひ地域福祉活動を知っていただき、考えたり、みなさんが参加するきっかけになることを願っています。

事例① お互いさま山の根 @逗子市



ご近所の人にあいさつ
しているかな。普段から、
地域でお互いにあいさつ
したり、気にかけてあうっ
て大事だよね!

逗子市の山の根自治会では、「お互いさま山の根」というチームを作り、一人暮らしの高齢者や障害のある人が地域で安心して暮らせるように、「見守り」と「生活支援」をしています。

見守りは、近所に住む人がサポーターとなって、いつもと違った様子はないか？具合が悪くて倒れていないか？と気にかけています。何か異常があれば自治会や役所に連絡をして、助けにつなげます。

生活支援は、ボランティアの人が、一人では電球の交換ができない、草むしりができない、といった小さな困りごとを手助けします。また、遠くて買い物に行けなかったり重いものを運ぶことが出来ない場合のために、配達してくれるお店を紹介したりしています。

最近テレビや新聞で、少子高齢社会の問題がよく取り上げられているよね。

今の日本には、一人で暮らす高齢者や障害者、子どもが育って高齢の夫婦二人だけで暮らす家がたくさんあるんだ。これからもっと増えていくなされているよ。だけど、このような人たちは、大きな地震や火事があった時、無事逃げる事が出来るだろうか。

また、何か困ったことがあった時、近くに家族や友達がいれば良いけれど、いない場合に頼れるのは近所の人だよ。

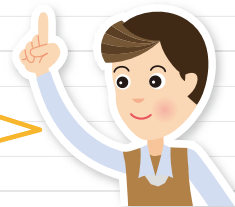
山の根自治会では、近所の人サポーターになって声をかけたり、ボランティアの人が生活を手助けしたりする関係ができたことで、一人暮らしでも困った時には、すぐ「助けて」と言えるし、地域の人「助けなくちゃ」と思うようになったんだって。

「お互いさま山の根」の人たちは、「サポーターだけでなく、誰もが自然に見守り、見守られる関係になるのが願い。そのためには近所の顔見知りを増やすこと。中学生も気軽に近所の人にあいさつしたり、声をかけて欲しい。」と言っているよ。

家族や友達でなくても、地域でちょっとしたお願いごとができる関係をつくる事が大切なんだよね。

みんなとも
やっつるよ!

「お互いさま山の根」は月に1回駅近くの広場で地域の交流サロンを開いています。サロンには高齢の方や買い物帰りの主婦、子供を連れのお母さんなど誰でも気軽に立ち寄る事が出来ます。お菓子を食べたり、お茶を飲んだり、時には、おでんパーティーも！地域の顔見知りが増えて、声をかけ合う関係づくりに役立っています。



見守りはあいさつから



電球交換をお手伝い



気軽に立ち寄ってください



おでんパーティー

事例 2 ふれあい訪問 @大和市



一人暮らしの
高齢者を訪問する
活動があるんだって。

大和市中央林間地区社協では、一人暮らしの高齢者が安心して地域で暮らしていけるよう、地域で見守る“ふれあい訪問”を行っています。

訪問は、ボランティアが月に2回、2人ずつペアで一人暮らしの高齢者の自宅に訪問します。その際に、からだの具合が悪くないかなどの安否の確認をし、何か困っていることがあれば、手伝ってくれる別のボランティアや民生委員児童委員などにつないでいきます。初めのうちは、玄関先でほんの数分間立ち話をする程度だったのに、訪問を重ねるうちにとても親しくなり、今では1時間以上話し込むことがあるほど、打ち解けるようになった方もいます。

自分がもし一人暮らしとなって、誰とも話をする
ことがなくなったらどうなるか、想像したことある
かな？

年を重ねると体が弱くなって活動する範囲が狭く
なったり、家族との別れなどから、精神的にも落ち
込んだり、地域の人と話をする機会が減ったりして
ひきこもってしまうことも多いんだ。「孤立」という
言い方をすることもあるよ。

このふれあい訪問は、そんな孤立を防ぐために安
否の確認や見守りをする活動だけど、ひとり暮らし
の人にとっては誰かと話をする楽しみな機会でもあ
るんだよ。一方で、訪問ボランティアにとっては、訪
問することで高齢者から人生のさまざまな英知や幅
広い経験談など“人生の先輩”から教わることがた
くさんあったりして、お互いにとって貴重な機会と
いえるね。

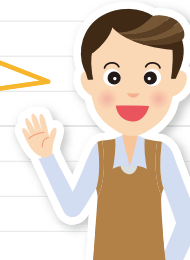
誰かと話をするのが、地域の中での孤立を防ぎ、
周囲の人とつながることで、生活していく上での精
神的な支えや生きがいにもなっているんだね。



若い方との交流は
とても**楽しみ**！

訪問を受けている方の声

普段、他人と話をする機会があまり
ないので月2回の訪問の時間はと
ても貴重な時間です。この年になっ
ても若い方との交流はとても嬉し
い。訪問ボランティアの方たちの
訪問はとても楽しみです。



高齢者などの見守り活動



玄関先でごあいさつ



ボランティアとは趣味の鎌倉彫や
粘土細工の話で盛り上がります



粘土細工
趣味で作った作品たち



鎌倉彫



そろそろ帰りの時間です

【自治会ってなに?】

「自治会」とは、地域を快適で住みよくするために、そこに住む人たちが自主的に結成している団体です。住民がお互いに話し合い、協力し、地域のためにいろいろな活動を行っています。例えば、ごみ処理活動、廃品回収、交通安全活動、防犯、防災、清掃活動、お祭りなどがあります。自治会内の連絡には回覧板や掲示板も使われています。自治会に入ることによって、住民同士の出会いの場やコミュニケーションの場が増えます。

【民生委員児童委員ってなに?】

「民生委員」とは、民生委員法に定められ、地域住民の中から選ばれ、厚生労働大臣から仕事をまかされた人で、一人暮らし高齢者などのお宅を訪問し、困りごとがないか聞いたり、福祉サービスを利用したい人のために市役所の窓口を紹介したり、住民の身近な相談役として活動している人です。また、民生委員は児童福祉法で定められた「児童委員」の仕事も兼ねていて、子どもたちを見守り、子育ての不安や妊娠中の心配ごとなどの相談にも乗っています。活動はすべて無償（ボランティア）です。

このように「民生委員児童委員」は、住民が住み慣れた地域でずっと安心して暮らしていけるように常に住民の立場で親身になって様々な相談に乗り、解決するためのお手伝いをしています。現在、全国で約23万人の民生委員児童委員が地域のために活動しています。

【社会福祉協議会ってなに?】

「社会福祉協議会」(略して社協(しゃきょう)と呼ぶこともあります)とは、社会福祉法に定められた「地域福祉の推進を図ること」を目的とする社会福祉法人で、全国に設置されています。社会福祉協議会は、地域に暮らす人々、社会福祉関係者、団体、さまざまな機関が参加し協働して、誰もが安心して生き生きと暮らせる地域づくりに向けた活動・事業を行っています。

【地区社会福祉協議会ってなに?】

「地区社会福祉協議会」(略して地区社協(ちくしゃきょう)と呼ぶこともあります)とは、市町村よりも小さい小学校区・中学校区ほどの広さにおいて、より身近な地域で福祉活動を進めるための住民自身による組織です。地区社会福祉協議会は地域の様々なメンバーで構成されています。例えば、自治会(町内会)、民生委員児童委員、老人クラブ、子ども会、ボランティア団体、PTA関係者など、地域づくりに関心のある人や地域の役に立ちたいと思っている人が中心になり協力して活動を進めています。活動内容は、高齢者のサロン活動、子育て支援活動、福祉まつり、会食会や配食などの食事サービス、安否確認のための見守り訪問活動など、地域によって様々です。自分たちの生活する地域の日常的な福祉問題を自分たちで考えながら、住民自身による地域づくりを進めています。

【ともしび運動ってなに?】

ともしび運動とは、障害のある人もない人も、高齢者も若者も国籍が違っても、すべての人たちが、お互いに理解し、人権を尊重しあい、手を携えて歩むことができる「ともに生きる福祉社会づくり」を推進する、かながわの県民運動です。



このシンボルマークはハートの中にあかあかと燃えるともしびを表しています。

Tea break



事例③ 出会い・発見・まち探検 @秦野市



障害のある人と
小学生と一緒に
歩きながら、街の
バリアフリー点検を
しているんだって。

障害のある人もない人もみんなが住みやすい街になる、それはとても大切なことです。秦野市社会福祉協議会の福祉教育プロジェクトチームでは、本町小学校の4年生が参加する「まち探検」を行っています。これは障害がある人と小学生とが一緒に歩きながら、街のバリアフリーの大切さを考える取り組みです。街中を移動する上での問題点を一緒に考え、おしゃべりをしながら、車いすを押したり、筆談をしたり、誘導したり…障害のある人と小学生とがそれぞれの思いや違いを理解しながら交流を深めるプログラムになっています。

身体に障害のある人と一緒に歩くことで、今までとは違った目線で街が見えてくるよ。生活するうえでの不便さだけでなく、車いすの機能や障害がある身体のこと、点字ブロックなど街のバリアフリーの環境のこと、いろんなところに関心や疑問もわいてくるしね。

それに、自分との違いをありのままに感じるという体験はとても大事だと思うよ。その上で、お互いに会話をしたりコミュニケーションをとることで、それぞれの思いを理解したり新たな発見が生まれてくることもあるんだよ。

街探検のプログラムが終わった後も、障害のある人に街で出会ったら、声をかけたりあいさつを交わす、自然なつながりが続いているんだ。

このプログラムはそうした気持ちがつながる「種まき」と言えるね。まいた種が、家庭や地域で育っていけば、みんなが安心して暮らせる街になるよね。

車いすを利用している参加者の声！

車いすを使っていることもあって、一見すると、見た目の違う私が、みんなと同じ“ふつう”な生活を送っていることを知ってほしい。それに、子どもたちには、自分の街に色々な人が共に暮らしているんだと言うことに気付くきっかけになってほしいです。この体験プログラム、今後さらに回を重ねて続けていけたらいいですね。



バリアフリーの活動・障害のある人たちの就労と社会参加の場



まずはビンゴ大会で関係づくり



まち探検、いよいよ出発！



駅にて



商店街にて

事例 4 パソコンひろば平塚 @ 平塚市



障害がある人のためのパソコン教室があるんだって。どんな活動かな？

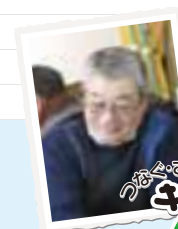
「パソコンひろば平塚」は障害がある人のためのパソコン教室です。パソコンを使いたい人が参加して、ワード・エクセルなどの一般的なソフトだけでなく、インターネットやゲームなど、自分がやりたいことをボランティアのインストラクター（「NPO法人IT大磯」の方々）に気軽に教わることができます。

このパソコン広場は、「ネットサロン KILC（キルク）」の中にあり、近所の人に来て、インターネットを楽しみながらお茶を飲んだりする場所もあります。障害のある人たちが作っているお菓子やパンなども売られていて、近所でも美味しいと評判です。



パソコンは、障害がある人のコミュニケーションツールの一つとしても活用されているんだ。でも、障害のある人にとっては、市販のパソコンをそのまま使うことができない場合もあるから、障害に合わせた支援機器が必要なこともあるんだ。それに、パソコンの機種を選ぶことやパソコンの設置、設定を一人でやるのが難しかったりする場合もあるよね。そんなときに、身近な地域でパソコンを学んだり、支援機器について相談できる場所があるとすごくいいよね。

また、ここでは、障害のある人とボランティアの人やお菓子を買いに来た近所の人は何気ない会話を交わしながら楽しく交流をしているよ。パソコンを学びながら、社会や地域とつながりを作っている場でもあるんだね。将来的には、障害者もインストラクターとなってボランティア活動に参加することを目指しているそうだよ。



障害をこえよう
パソコン!

パソコンひろば平塚 高住さん

パソコンに興味はあるけれど、触れる機会のない方や学生の皆さん、気軽に立ち寄ってください。ここがみんなのたまり場になってほしいです。利用されている方からは『中学生のほうが、気軽に質問しやすいから良いなあ』という人もいます。宿題をしながら、一緒に交流の場として利用してみませんか。



受講者作品集のポスター

みなさんの作品を集めました



カレンダー製作中



楽しみながら学べます



遊びに来てね!

事例 5 ともしびショップ Cafe BLUE SEAS (カフェ・ブルーシーズ) @ 三浦市



ともしびショップで
まぐろカツバーガーを
食べたんだって。
ともしびショップって
知ってる？

三浦といえばまぐろが有名ですが、そんな三浦にともしびショップ“Cafe BLUE SEAS”があります。ここではまぐろやキャベツなどの地元食材を使った“みさきまぐろカツバーガー”が大人気。熱をくわえるとトロリとやわらかくなるまぐろの尾の身を使ったヘルシーな手作りハンバーガーは、お代わりをする人もいるほどの人気メニューです。

三浦海岸の駅から徒歩2分のこのカフェ。観光客が多いのかと思いきや、海岸までのメインストリートから一歩奥まった通りにあるので、意外にもお客さまはご近所さんが多いとか。おいしいハンバーガー目当てにリピーターとなった地域の人たちが気軽にくつろげる場所になっています。

でも実はここ、おいしいものがあるカフェというだけではなく、精神障害のある人が一緒に働く場所でもあるのです。

精神に障害のある人の中には、人と接することが苦手だったりして、生活する上で不自由さを感じている人も多いんだ。でもそれは決して特別なことではないんだよ。ここで働いている人も、人と会話することが苦手だったけれど、カフェがオープンしてから2年が経ち、だんだん地元の人にも知られるようになって、道で会ったお客さんに声をかけられたりするうちに会話が出来るようになっていったよ。

障害があってもみんなと同じように働きたいと思っている人は大勢いるんだよ。ハンバーガーを作ったりお客さんにサービスしたりするうちに、少しずつでも人と関わられるようになれる、そんな場所があるっていいよね。

「ともしびショップ」は、障害のある人が働くことを実感し、仲間や地域の方々とのふれあいを通して、自立と社会参加を実現していくためのお店なんだ。神奈川県内には、公共の建物や公園などに、49か所あるよ。

つねに「ささえる
キーンッ!



Cafe BLUE SEAS 所長
岩崎さん

生活の中で精神的な辛さを感じている人は学校や近所など身近なところにも必ずいます。障害者を特別な人と思わずに、困っている友達がいたら、さりげなく声をかけてあげてみてください。ちょっとした声かけがその人を支えたりほっとさせたりすることもあから。



パリアフリーの活動・障害のある人たちの就労と社会参加の場

カフェ・ブルーシーズ



おしゃれなお店です



まぐろカツバーガーが大人気！
立て続けにオーダーが入ります



居心地の良い空間に会話ははずみます



ウワサのまぐろカツバーガー

身近にあるユニバーサルデザイン

製品や建物・環境を、障害・年齢・性別・国籍など、人がもつそれぞれの違いを超えて、あらゆる人が利用できるように、はじめから考えて使いやすいデザインにすることをいいます。

ユニバーサルデザインとバリアフリー

ユニバーサルデザインと近い考え方としてバリアフリーがあります。

ハードや制度などのすでにある障壁（バリア）を取り除くことがバリアフリー、性別、年齢、国籍、障害の有無にかかわらず、はじめからすべての人々が利用できるようなつくっておこうという考え方がユニバーサルデザインです。

たとえば、すでにある段差等のバリアを取り除くために、歩道の幅を広げたり、段差をなくしたり整えることがバリアフリーですが、はじめからだれもが歩きやすく幅が広い段差のない歩道をつくるのがユニバーサルデザインです。

ユニバーサルデザインは、人にやさしい街づくり

人は年を重ねていくと、いろんなことが変わってきます。例えば目が見えにくくなって小さな文字が読みづらくなったり、耳も小さな音が聞こえづらくなったりします。また、妊娠している女性や小さな子どもを抱える親は、駅の階段を上り下りするのが大変です。けがをして松葉づえをついたり、車いすを使うこともあるかもしれません。

ユニバーサルデザインは、みんなが快適に過ごせる街づくりの方法の一つです。

トイレの案内サイン

絵文字・絵単語（ピクトグラム）などと言われます。情報を、誰にでもわかるデザインに単純化したものです。これなら遠くからでもわかりやすく、文字が読めない小さな子どもでも、ここがトイレであることがわかりますね。



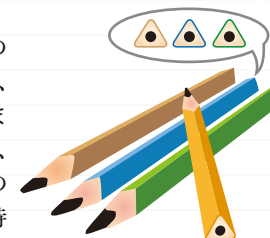
ユニバーサルデザインの自動販売機



この自動販売機は、購入ボタンや取出口が低い位置にあるので、車いすを利用する人や、子どもなどが楽に商品を取り出せるようになっています。また、投入口が広いのでコインが入れやすくなっています。

三角鉛筆

三角の軸（じく）なので手によくフィットし、正しい持ち方が学べます。鉛筆の軸が太くて、小さい子ども、指の力の弱い人や高齢の人にも持ちやすくなっています。



携帯電話

携帯電話メールの機能は、聴覚に障害のある人のコミュニケーション手段を大きく広げました。

ダイヤルボタンが大きく、画面の文字も大きいので見やすくなっています。

また、音声読み上げ機能付きの携帯電話は、視覚障害のある方にも好評です。



Tea break



事例⑥ おだわら21世紀少年 @小田原市

小田原市社会福祉協議会では、小学生から大学生までの子どもたちを集めた異世代交流イベント「おだわら21世紀少年」を行っています。これは、参加する子どもたちに関心を持ってもらうために、映画「20世紀少年」をモチーフとし、小学生から大学生までがグループをつくり、そのグループが協力しながら、大地震の災害対策をテーマにさまざまな体験を地域に入って挑戦していくというプログラムです。

この体験では、避難生活を想定したダンボールの基地づくりや野外キャンプをしたり、地元のお店で話を聞いて、井戸など災害の時に役に立つ場所をさがすまち探索をしたり、さらには、高齢者に防災に関するインタビューをするなどの交流体験をして、最後には「新・よげんの書」＝「子どもたちが考える防災計画」を作っていきます。

今の中学生は、普段どういう遊びをしているかな？最近面白いテレビゲームも増えて、家の中で遊ぶことが多いんじゃないかな？それに受験勉強や塾通いで毎日忙しいでしょ。外で友達と遊ぶことって少ないんじゃない？

子どもが遊ばなくなったことを“サンマがいなくなった”と言うこともあるよ。これは「時間・空間・仲間」の三つの間（マ）が無くなったという意味なんだ。競争社会や都市化のため、時間や遊ぶ場所、みんなで遊ぶ機会が減っているということなんだね。でも、人と遊ぶことや外で遊ぶことってとても大切なんだよ。社会性って言ったりするけれど、人は遊びを通して多くのことを学び、人との関わり方や生きていくために必要なさまざまな手段を身につけていくんだよ。

このイベントでは、いつもの同級生とは違う年代の仲間が会って、互いに協力して知恵を出し合って、普段経験できないようなことにチャレンジしているよ。仲間同士のチームワークによる活動が、今、薄れつつある世代間の学び合いの時間になっているんだよ。

イベントが終わった後も、「町で会ったりすると声を掛け合うようになって、嬉しくなる」という子どもも多いよ。参加した子どもたちの間には強い連帯感が出来上がっているんだね。

つゆ・ささえる
キーン！
パーン！

社会福祉協議会
秋山さん



「昔は地域にガキ大将がいた。ガキ大将は時として乱暴をしたりもするけれど、弱い者を守って、皆を引っ張るリーダーでもあった。この“おだわら21世紀少年”に参加してくれた子ども達が、ガキ大将になって、将来、小田原の地域を支えるリーダーになってくれたら…」

今では地域にいなくなったガキ大将の復活、そしてガキ大将が将来地域を担うリーダーになる、そんな願いを込めて、種まきをしている秋山さんです。



世代間の交流やサロン活動



小田原城の前でパチリ



ランタンファイヤーです



まち探索「薬局班」



野外生活体験「ロープワーク」

事例 7 共育ひろば @川崎市川崎区



顔を知ってる人、
よく話す人、挨拶する人、
自分が暮らす地域に
いますか？

川崎市の「共育ひろば」には高齢者・障害者がおしゃべりや食事を楽しむための「おしゃべりひろば」があります。料理が得意な人、折り紙が得意な人、おしゃべりが得意な人…それぞれが役割を持ちながらのんびりと過ごしています。また小学生が宿題や遊びをしながら放課後を過ごすための「学童保育ばんび」や学習塾「マッキー塾」もあり、おしゃべり広場にきた高齢者と子どもたちが自然とふれあう場所となっています。そのため、近所で偶然会ったときにも、自然にあいさつや会話が生まれる関係になりました。



一人暮らしの人が、地域に声をかける人もいない、誰も頼る人もいない、気にかけてくれる人もいないで孤立…、って最近よく聞くよね。でも、家族や友達と一緒に暮らしていても、気になっていることを話したり、お互いを気にかけてたりできなければ、それと同じ状態なんじゃないかな。

そういう意味では、気になっていることを誰かに伝えたり気にかけて合ったりできる場所、安心して過ごせる場所が必要なんだよね。

共育ひろばは、高齢者と小学生が一緒の場所を共有しながら、お互いに気にかけることで“安心できる居場所”になっているんだよ。

こんな話もあるよ。「私は得意なことがないし、何もできない…」という人でも、「いいですよ。あなたがいるだけで場がなごむから。」と声を掛けてくれるんだって。こういう居場所が地域のあちこちに増えていくと、みんな安心して暮らしやすくなるよね。地域の中でお互いに顔が見えてあいさつが出来る関係をつくることって、実は人と人の絆（きずな）を作る第一歩なんだなって思うよ。

のび・ささえる
キッズ
パーソナル



共育ひろば代表
牧岡さん

牧岡さんは、人と人をつなげ、さらに地域の中でその人同士がつながりあえるように工夫し、利用者が自由に活動できるように見守る調整役でもあります。

「ずっとひとりでいた人が、ここで出会い、互いに連絡を取り合い、互いに気にかけて始める、これこそが地域福祉です。ここを巣立って行ったこどもたちには、人のことを気に掛け、いたわり合える“気付きの目”を養っていった欲しいです。」



和やかな雰囲気のおしゃべりひろば
自然と笑顔が生まれます



昼食はとても豪華。すべてみなさんの手作りです！



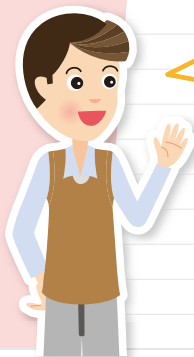
学童保育ばんびのひとコマ。のびのびと過ごしています

事例 8 つるまきほっとタイム @秦野市



公民館に行ったら
小さい子どもとお母さんが
楽しそうに集まっていたよ。
「子育てサロン」って
いうんだって。どんな
ところかな。

秦野市鶴巻地区には子育て中のお母さんたちが集まる、子育てサロン「つるまきほっとタイム」があります。子育て経験のあるボランティアさんに子育てのアドバイスをもらったり、お母さん同士でお話したりと、小さな子どもと一緒に気軽に参加することができます。最近は自治会館やマンションの集会室などで行われる小さな子育てサロン「プチほっとタイム」が広がっています。このサロンは民生委員児童委員、地区社協の役員、ボランティアをはじめ、たくさんの地域の人たちが協力して行っています。



子どもが小さい時は、身のまわりのことが一人でできないから、お母さんがお世話をするよね。子育て中のお母さんはとても忙しいんだ。だからお母さんは、自分の時間がなかなか持てなかったり、子育ての悩みを一人で抱え込んでしまったりすることもあると思う。例えば、子どもが泣きやまない時、どうしたらいいか身近に相談できる仲間や場所があったら心強いよね。

お母さんがちょっとひと休みできて仲間と悩みを話しあったり、子育ての先輩に相談をしたりできる場所、子育てサロン「つるまきほっとタイム」はそういう場所なんだよ。特に「プチほっとタイム」ではお母さんたちの関係もより身近になって、お母さん同士の友達“ママ友”も増えてきているみたいだよ。他にも夏の流しそうめんや「つるまきちびっこ広場」っていう賑やかなイベントも年に数回あるんだ。子どもたちがたくさん遊んで笑顔でいてくれたら、お母さんも嬉しくなるよね。イベント当日は、多くの中学生もボランティアでお手伝いに来てくれるんだって。また、最近では近所に住む高齢者が、子どもたちのために手作りのオブジェを作ってくれてとても喜ばれたんだって。

みんなが子育てのお手伝いをすることで、お母さんは助かるし、地域が一つになれる気がするよね。鶴巻地区では子どもをお母さんと地域の人がみんなで優しく包み込んで、町全体で子育てに取り組んでいるんだ。

キラッと☆光る!

鶴巻地区はマンションや新しい住宅地が多く子育て中の人が多く暮らしていて、地域のみんで「子育てしやすい町づくり」に取り組んでいます。ここでは中学生のボランティアも、高齢の方も、地域の人はみんな子育てに参加することができます。地域の活動に関わること、協力することを通して、人と人のつながりが生まれる、その素晴らしさを教えてくれます。



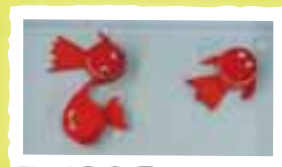
当日は中学生もボランティアでお手伝い。
打ち合わせ中です



演劇では子供たちも衣装をつけて



和太鼓の演奏で盛大にオープン!



おもちゃ作りも体験できます。
写真は金魚たち

事例 9 小学生からの手紙つき給食サービス @相模原市



この前、一人暮らしの高齢の方に手紙を書いたら、“夢に向かってがんばってね”という返事をもらって、とても嬉しかったよ。

相模原市大沢地区社協では一人暮らしの高齢者に配るお弁当に、小学生からの手紙を添えて届ける活動をしています。

お弁当はボランティアグループ「陽だまりの会」が作っています。手紙は、大沢地区にある4つの小学校の生徒、主に3年生が順番に書いています。初めは、一人暮らしの高齢者の安否を確認する目的でスタートした活動ですが、4年前からは小学校の協力を得て、お弁当の一つひとつに、心のコもったメッセージを添えて届けられるようになりました。

身体が弱って、思うように外出できないという高齢者はたくさんいるんだよ。人と会う機会が少なくなる中で、手作りのお弁当に子どもたちからの、かわいい手紙が添えられていたら嬉しいよね。

手紙を書いた小学生たちは「おじいさん、おばあさんが読んでる姿を思い浮かべて、どうすれば喜んでくれるか考えながら自分の将来の夢や、運動会のこと、学校でのことなどを書きました」と言っているよ。一生懸命書いているんだね。

また、高齢者からの返事もたくさん届くんだ。逆に子どもたちのほうが励まされたりして、元気をもらえたり、高齢者自身のこともいろいろと書いてくださるので、自然と交流が生まれているんだよ。

この地域では手紙の交流のおかげで小学生と高齢者が日常的にあいさつする風景が増えたんだって。手紙を通して世代を超えた心の交流が始まったと言えるね。手紙が一人暮らしの高齢者にとっては心の支えになっているし、地域では気軽にあいさつしやすくなる心の交流手段になっているんだ。これは、地域にとっての宝物だね。



とても嬉しいです！

サービスを利用している方の声

子どもたちからのお手紙を毎回楽しみにしているんです。足が弱って外出する機会が減り、小さなお子さんとおしゃべりすることもあまりないので、お弁当と一緒にお手紙が届くっていうのは小さな子どもさんが訪ねてきてくれたようで、とても嬉しいです。



お弁当製作中！全部手作りです



子供たちからのお手紙は毎回楽しみです



手作り弁当おいしそう！

季節によってメニューを工夫します



心のコもったお手紙です

事例 10 共和地区福祉バス @ 山北町



住民の人達で取り
組む送迎バスが
あるんだって。

山北町の共和地区では、住民の人たちによる「共和地区福祉バス運営会」が、通学や通院、買い物など、地域の人々の重要な足になる10人乗りのバスを運行しています。

総面積の9割が山林の山北町。中でもここ共和地区は傾斜が急で狭い道が多く、車が行き違えない道路も数多くあります。そのため路線バスは入れず、町の中学校への通学には、自転車を使うか自家用車で送迎してもらうかどちらかになります。山道なので朝は下りで楽だけれど、帰りは自転車を押して登ってこなければなりません。また一方、仕事帰りのお父さんに自家用車で迎えにきてもらう子たちは、街角で待合わせまで時間をつぶさなければなりませんでした。



中学生が巻き込まれる事件が各地で起こっているよね。この地域の人たちは、そんなマスコミの報道に胸を痛めたんだ。時間をつぶすために街をうろついたり暗い山道を帰る子どもたちのことが心配だったんだね。

「子どもたちの安全を守らなければ！自分たちで何とか暮らしやすい地域にしよう」そんな強い思いから取り組みはじめたんだって。今地域のつながりが薄くなったってよく言われているけれど、このバスをきっかけに、同じ思いを持つ共和の地域の人たちのつながりが、より強いものになっているんじゃないかな。

朝夕の通学の送迎に加えて、日中は通院や買い物をした人のために、行きたいところまで送ってくれるんだって。高齢の方にもとても大切な足になっているんだね。バスの運行以外にも、町で親と帰りを待ち合わせする子どものために、公民館や町役場で待合わせしてもいいように、町に交渉したりもしているよ。

どうしたら子どもたちが安全に暮らせるか、若い人たちが住みたい町になるか、また、どうすれば高齢者が暮らしやすい町になるか、いつもいろいろ考えているんだって。



なごきえる
キーン！
パーソン！

共和地区福祉バス
運営会会長
杉本さん

「今80歳の方が運転できなくなる時はいずれ来る。中学生と高齢者の移動の問題は同じ。弱い立場の人をどうにかしなくては！」

どうすればみんなが暮らしやすい地域になるか、とりわけどうすれば若い人が住みたい町になるか、いつも考えながら活動している杉本さんです。

地域住民が取り組む福祉バス



木で作られたバス待合室はあたたかい雰囲気です



バスに乗る様子です

キラッと☆光る！

護美(ごみ)地蔵：道の車寄せにはごみの不法投棄が…。そこで、地域に住む彫刻家が作ってくれた護美地蔵を置いてみたら、ごみが捨てられることはなくなった！



キラッと☆光る！

部活の早朝練習のため自転車で通学したら、学校や駅においた自転車を回収して宅配してくれる。そのおかげで、帰り道はバスで帰り、次の朝はまた自転車で部活に行くことができるのでありがたい。



言葉や文化、生活習慣が違う外国籍の人が日本で暮らすサポートをする活動があるんだって。

横浜市泉区から大和市にまたがる県営いちよう団地には、中国やベトナム、カンボジアなどいろいろな国籍の人も多く暮らしています。言語や文化、生活習慣が違う外国籍の人が日本で安心して暮らしていけるように、「多文化まちづくり工房」というボランティア団体がサポート活動をしています。外国籍の人のための日本語教室には毎回たくさんの方が参加し、とても賑やかな雰囲気の中で行われます。また、小・中学生の学習サポートのために補習教室も行っています。今では外国籍の子どもだけでなく、友達の日本人の子どもも一緒に参加することもあります。この他にも、翻訳、生活相談、団地のお祭りへの参加など、さまざまな活動をしています。

誰でも外国で暮らしていくことって簡単なことじゃないよね。きっと不安や困り事もあると思うんだ。例えば、ゴミの分別方法が分からなかったり、市役所からの大切なお知らせが読めなかったり…。外国籍の人が日本で暮らすときも同じだと思うよ。だから身近にこういうサポートがあるととっても助かるよね。多文化まちづくり工房では日本語教室や学習サポートをはじめ、翻訳活動として団地内の生活ルールや市役所からのお知らせなど生活に必要な情報をベトナム語や中国語、カンボジア語などいろいろな言語にして配ったり、生活上の困り事などの相談も受けたりしているよ。いちよう団地まつりではいろいろな国籍を活かした国際色豊かなお店を出しているよ。そして、これらの活動はみんな、地域の人だけでなく、学生や社会人など、多くのボランティアの人に支えられているんだ。外国籍の人も日本人もみんなが「共に生きる」まちづくりを目指しているんだね。いろいろな言語、国籍を持つ人たちが交流し、理解し合い、助け合える関係をつくる場所。そんな場所があればみんなが一緒に暮らせる温かい地域をつくれるんだと思うよ。

多文化まちづくり工房代表
早川さん



多文化まちづくり工房代表
早川さん

私たちは、外国籍の人のためにとかではなく、ごく当たり前の人間のつながりを作っているんですよ。コミュニケーションが楽しいんです。国籍とか言語の違いって、むしろ違いがあるからこそ、興味を持つものだし、違いがつながりのきっかけになるんだと思うんです。大事なことは人と人がつながることなんです。

※多文化まちづくり工房は、優れた国際文化交流活動として、平成22年度の国際交流基金「地球市民賞」に選ばれました（神奈川県から初の受賞）。

外国籍の人とともに生きるまちづくり



日本語教室はとてもアットホーム



会場は団地の近くにあるいちよう小学校内の国際交流室です



日本で暮らすのためにしっかりサポートします



いちよう団地祭りに出店！
いろいろなメニューが並びます

事例 12 横須賀基督教社会館 @横須賀市

キリストきょう



この前、高齢者のデイサービスセンターに行ったんだ。デイサービスセンターって知ってる？

デイサービスセンターは、介護が必要な高齢者が、日中安心して過ごせる場所です。朝、自宅にデイサービスの車のお迎えがあり、日中は、お風呂に入ったりゆったりと体操をしたり、みんなで昼食を食べたり趣味の活動をしながら過ごし、夕方には自宅まで送ってもらえます。

横須賀基督教社会館にある喜望の園デイサービスセンターでは、近所の人が数多くボランティアとして参加していて、高齢者と話をしたり、縫物や小物を作ったりしています。

ここは、旧海軍の施設跡地に建てたコミュニティセンターから発祥した横須賀基督教社会館が活動の元になっています。社会館は、戦後間もない頃からその時代時代に地域にとって必要な福祉活動やサービスを行ってきました。



社会館は、地域の人たちとともに歩むことを大切にしている活動をしているんだ。だから社会館がバザーを始めたときには、協力しようという声が地域から上がって、300人を超える人たちがボランティアで参加したこともあったよ。これは、地域の人たちが「自分たちの社会館なんだ」という気持ちを持っていたからだよね。

それに加えて、この地域は、階段や坂が多く商店街から遠いなど不便な場所もあったから、近所の人が高齢者や困っている人に気軽に声をかけたり、ご近所で助け合って暮らしてきた風土があるんだ。だから近所の人が社会館のボランティアに参加するようになったのも、ごく自然なことだったんだ。

近所の人がボランティアとして関わっているデイサービスなら安心して通えるよね。

のびのびと
楽しむ
キーン！



ボランティアの
石渡さん

仕事を退職した後、近所の人に「暇なら来てみたら？」と声をかけられて軽い気持ちでボランティアを始めました。「来週も会いたいね、また来てね！」と高齢者から声をかけられると嬉しくて、もう10年続けています。

今の若い人はとても優しいし、若い人が来ると、高齢の方もいきいきと楽しそうに話しかけてくれるので、気軽に来て話してほしいですね。

施設のボランティア活動



スタッフと仲良しポーズ！



みんなで体操！



デイサービスのパンフレットです

ボランティアってなに？

ボランティアとは、自分の意志で、自ら進んで他の人や地域を支える活動などをする事です。困っている人がいたら、手を差し伸べ、自分にできることで、自分や周りの人があたたかになれるような思いやりの行動をおこすことです。また、より社会が豊かになるために、新しいものを創り出す活動でもあります。

人の笑顔が見られるボランティア活動は、とても楽しい！ 続けていくとたくさんの発見や喜び、取り組む達成感、充実感が味わえます。

ボランティアの語源

ボランティアの語源は、自由意志を意味するラテン語「voluntas (ヴォランタス)」であると言われていています。その「voluntas」から、喜びや精神を意味するフランス語「volonte (ボランテ)」が生まれ、これに人を表す接尾辞 er を加えて英語「volunteer (ボランティア)」となったようです。

Tea break



ボランティア活動をするときの10つの約束

- 1 あいさつはきちんとする。
(初めて出会った人と仲良くなるため、自分を知ってもらうための第一歩として大切です)
- 2 遅れるとき、休むときは連絡をする。
(あなたが来るのを楽しみにしている人がいることを忘れないでね！)
- 3 約束・ルールは必ず守る。
(相手がいることを忘れないでね！)
- 4 分からないことは、ちゃんと聞く。
(遠慮や知ったかぶりはダメ)
- 5 いろんな人と交流をしてみましょう。
(あなたの世界も広がります)
- 6 無理なく、自分のペースで継続できる計画を立てよう。
(「できること」から始めよう)
- 7 相手を認め、立場を尊重しましょう。
(自分一人の活動ではありません)
- 8 「してあげる」ではなく自分のために。
(一緒にやろうという気持ちでね)
どんな場合にも一報告・連絡・相談一ほう・れん・そう一を忘れずに！
- 9 活動を通して知った個人的な情報は、むやみに話さない。
(話すときは、相手の許可をもらってからね)
- 10 周囲からの理解を得る
(家族など周囲の支えがあってこそ、ボランティア活動は続けられます。活動日時、活動場所の連絡先を事前に伝えましょう。)

ボランティア5つの分野

- ① 集める
集めたものがワクチンや物などと交換でき、援助活動などに役立ちます。
ペットボトルのキャップ、ベルマーク、使用済み切手・テレホンカードなど
◆募 金→P19 赤い羽根共同募金
◆バザー→P17 横須賀基督教社会館
- ② 手伝う
高齢の方や障害のある方などの外出介助等のお手伝いや社会福祉施設でのお手伝いなどがあります。
◆施設の手伝い・催し物の手伝い→P17 横須賀基督教社会館
- ③ ふれあう
高齢の方や子ども、障害のある方、異なる文化を持つ方とコミュニケーションをとるふれあい活動などがあります。
◆訪問・見守り→P4 おおいさま山の根 P5 ふれあい訪問
◆招待・文通→P14 小学生からの手紙つき給食サービス
◆異文化交流→P16 多文化まちづくり工房
◆出会い・発見→P7 出会い・発見・まち探検
P8 パソコンひろば平塚
P9 ともしびショップ cafe BLUE SEAS
- ④ 学ぶ・調べる、守る
街のバリアフリー、防災、防犯、ゴミ問題など、街や身の回りの自然を見つめ、理解し、守る活動があります。
◆学ぶ・調べる→P7 出会い・発見・まち探検
P11 おだわら21世紀少年
◆守 る→P15 共和地区福祉バス
- ⑤ 教える
子どもたちと遊んだり、宿題をみてあげたりして、一緒に楽しく交流しています。
◆学習指導・遊び指導・レクリエーション→P11 おだわら21世紀少年
P12 共育ひろば

事例 13 赤い羽根共同募金 横浜市神奈川区

※県内の各市区町村に共同募金会があります。



募金は、誰が何のために集めているのだろう。集まったお金はどこにいくのかなあ。

赤い羽根共同募金は、「共同募金会」という民間の団体によって行なわれ、神奈川では社会福祉法人神奈川県共同募金会が実施しています。住んでいる市町村で寄付されたお金は、約7割がその市町村の様々な福祉活動に役立てられ、残りの約3割は、神奈川県内の福祉活動に使われています。誰かのために…という募金は、自分たちの町の福祉のために使われているのです。赤い羽根共同募金運動は、10月1日～12月31日までの3ヶ月間で、北海道から沖縄まで全国いっせいに開催されています。

私たちの身近には、障害のある人や高齢者など、手助けを必要とする人々が福祉サービスを利用しながら暮らしているね。例えば、一人暮らしの高齢者にお弁当を届ける配食サービス、障害がある人が出かける時の送迎サービスなどがあるけど、共同募金はこういうサービスを運営するために使われているよ。共同募金会は、「寄付者と寄付を受ける人の橋渡し」を心がけているそうで、寄付金を渡すだけでなく、

寄付者の思いも渡すことを大切にしているんだって。

また、赤い羽根共同募金は、ちょっと進んだ活動をしている団体にも配られているよ。少し前の、ホームヘルプサービスもその一つだったんだ。寄付金がこういう民間の活動を支えてきたことによって、そこから新しいサービスのしくみが作られてきたものもあるんだよ。

「誰かの役に立ちたい、でもまず何をしたらいいかわからない」という人もいると思うけれど、そんな気持ちを赤い羽根共同募金であらわしてみるのもひとつの方法じゃないかな。自分ができる範囲、できる金額でね。



ありがとう メッセージ!

共同募金会は、寄付をしてくれた人に、寄付金の使われ方が見えることを大事にしています。共同募金会のホームページには、寄付を受けた団体からの感謝メッセージが掲載されています。実際の声を紹介します。

「NPO 法人ワーカーズ・コレクティブ じゃがいもの会」

(高齢者にお弁当などの配食サービスを行っている会)

赤い羽根共同募金を使わせていただきありがとうございます。今年も地域で暮らす元気なメンバーと配食サービスの活動をすることができました。来年度は地域で活躍していらっしゃる他団体にもじゃがいもの会のお料理をアピールしていきたいと思っています。

自分の町を良くするしくみ

県内プロスポーツチームも赤い羽根共同募金を応援



「横浜F・マリノス」試合会場での募金活動



川崎フロンターレ「ふるん太」も募金活動に協力



募金を呼びかける
横浜ベイスターズ「ホッシーズ」

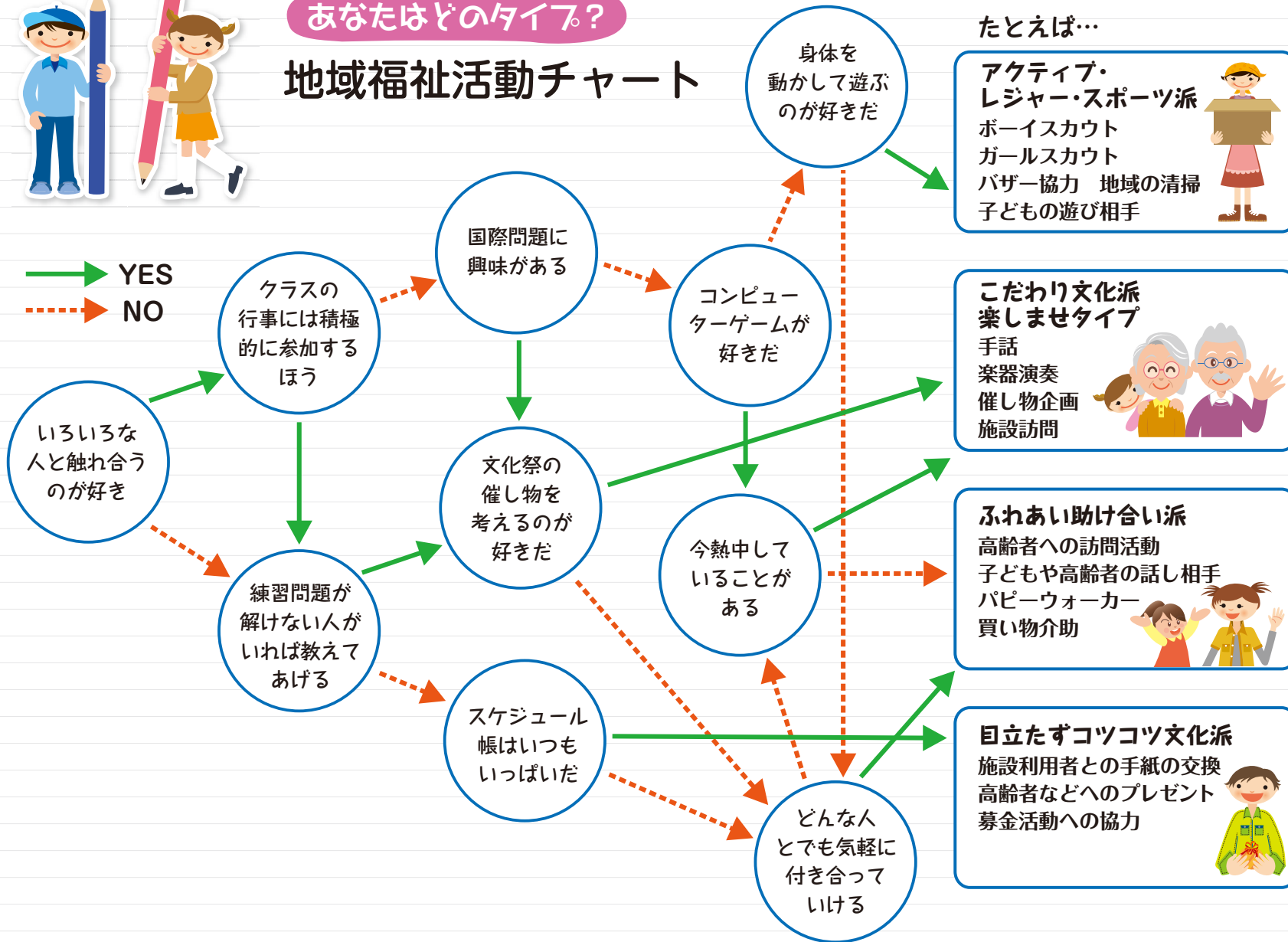


「湘南ベルマーレ」も共同募金を応援



あなたはどのタイプ? 地域福祉活動チャート

→ YES
- - - NO



たとえば…

アクティブ・レジャー・スポーツ派
ボーイスカウト
ガールスカウト
バザー協力 地域の清掃
子どもの遊び相手



**こだわり文化派
楽しませタイプ**
手話
楽器演奏
催し物企画
施設訪問



ふれあい助け合い派
高齢者への訪問活動
子どもや高齢者の話し相手
パピーウォーカー
買い物介助



目立たずコツコツ文化派
施設利用者との手紙の交換
高齢者などへのプレゼント
募金活動への協力



地域のボランティアセンターに行ってみよう

県内のボランティアセンター 県内の市区町村社会福祉協議会（社協）にボランティアセンターがあります。

2011年3月7日現在

名称	所在地	TEL	FAX
神奈川県社協	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2 かながわ県民センター 12 階	045-312-1121	045-312-6307
横浜市社協	〒231-8482 横浜市中区桜木町 1-1 健康福祉総合センター 8 階	045-201-8620	045-201-1620
鶴見区社協	〒230-0051 横浜市鶴見区鶴見中央 4-32-1 U N E X ビル 5 階	045-504-5625	045-504-5616
神奈川区社協	〒221-0825 横浜市神奈川区反町 1-8-4 はーと友神奈川内	045-311-2014	045-313-2420
西区社協	〒220-0011 横浜市西区高島 2-7-1 ファーストプレイス横浜 3 階	045-450-5005	045-451-3131
中区社協	〒231-0023 横浜市中区山下町 2 産業貿易センタービル 4 階	045-681-6664	045-641-6078
南区社協	〒232-0024 横浜南区浦舟町 3-46 浦舟複合福祉施設 8 階	045-260-2531	045-251-3264
港南区社協	〒233-0003 横浜市港南区港南 4-2-8 港南区福祉保健活動拠点内	045-841-0256	045-846-4117
保土ヶ谷区社協	〒240-0001 横浜市保土ヶ谷区川辺町 5-11 「かるがも」 3 階	045-332-2412	045-334-5805
旭区社協	〒241-0022 横浜市旭区鶴ヶ峰 1-6-35 「ばれっと」 旭内	045-392-1133	045-392-0222
磯子区社協	〒235-0016 横浜市磯子区磯子 3-1-41 磯子センター 5 階	045-751-0739	045-751-8608
金沢区社協	〒236-0021 横浜市金沢区泥亀 1-21-5 「いきいきセンター 金沢」内	045-784-2222	045-784-9011
港北区社協	〒222-0032 横浜市港北区大豆戸町 13-1 吉田ビル 206	045-547-2238	045-531-9561
緑区社協	〒226-0011 横浜市緑区中山町 413-4 ハーモニーみどり内	045-935-7807	045-934-4355
青葉区社協	〒225-0024 横浜市青葉区市ケ尾町 1169-22 青葉区福祉保健活動拠点	045-972-7018	045-972-7018
都筑区社協	〒224-0006 横浜市都筑区荏田東 4-10-3 港北ニュータウンまちづくり館内	045-943-4058	045-943-1863
戸塚区社協	〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町 167-25 戸塚区福祉保健活動拠点 1 階	045-866-8483	045-862-5890
栄区社協	〒247-0005 横浜市栄区桂町 279-29 栄区福祉保健活動拠点内	045-894-8521	045-892-8974
泉区社協	〒245-0016 横浜市泉区和泉町 3540 泉ふれあいホーム内	045-802-2150	045-804-6042
瀬谷区社協	〒246-0021 横浜市瀬谷区二ツ橋町 469	045-361-2117	045-361-2328
川崎市社協	〒211-0053 川崎市中原区上小田中 6-22-5 川崎市総合福祉センター 5 階	044-739-8718	044-739-8739
川崎区社協	〒210-0006 川崎市川崎区砂子 1-10-2 ソシオ砂子ビル 9 階（福祉/バロかわさき内）	044-246-5500	044-211-8741
幸区社協	〒212-0023 川崎市幸区戸手本町 1-11-5 さいわい健康福祉プラザ（福祉/バロさいわい内）	044-556-5500	044-556-5577
中原区社協	〒211-0067 川崎市中原区今井上町 34 和田ビル 1 階（福祉/バロなかはら内）	044-722-5500	044-711-1260
高津区社協	〒213-0001 川崎市高津区溝口 1-6-10 てくのかわさき 3 階（福祉/バロたかつ内）	044-812-5500	044-812-3549
宮前区社協	〒216-0033 川崎市宮前区宮崎 2-6-10 東急宮崎台ガーデンオフィス 4 階（福祉/バロみやまえ内）	044-856-5500	044-852-4955
多摩区社協	〒214-0014 川崎市多摩区登戸 1763 ライフガーデン向ヶ丘 2 階（福祉/バロたま内）	044-935-5500	044-911-8119
麻生区社協	〒215-0004 川崎市麻生区万福寺 1-2-2 新百合 21 ビル 1 階（福祉/バロあさお内）	044-952-5500	044-952-1424
相模原市社協	〒252-0236 相模原市中央区富士見 6-1-20 あじさい会館内	042-786-6181	042-786-6182
相模原市社協 南	〒252-0303 相模原市南区相模大野 6-22-1 南保健福祉センター内	042-765-7085	042-748-4419
相模原市社協 しろやま	〒252-0105 相模原市緑区城山久保沢 2-26-1 城山保健福祉センター内	042-783-1212	042-782-4050
相模原市社協 つくい	〒252-0157 相模原市緑区津久井町中野 633 津久井総合事務所内	042-784-3393	042-784-6142
相模原市社協 さがみこ	〒252-0171 相模原市緑区与瀬 896 相模湖総合事務所内	042-649-0202	042-649-0200
相模原市社協 ふじの	〒252-0184 相模原市緑区小淵 2000 藤野総合事務所内	042-687-3361	042-687-4049

名称	所在地	TEL	FAX
横須賀市社協	〒238-0041 横須賀市本町 2-1 横須賀市立総合福祉会館 4 階	046-821-1303	046-824-8110
平塚市社協	〒254-0047 平塚市追分 1-43 平塚市福祉会館内	0463-33-2333	0463-30-3312
鎌倉市社協	〒248-0012 鎌倉市御成町 20-21 鎌倉市福祉センター 2 階	0467-23-1075	0467-22-2213
藤沢市社協	〒251-8601 藤沢市朝日町 1-1 市役所第一庁舎内	0466-26-9863	0466-26-6978
小田原市社協	〒250-0045 小田原市城山 2-1-5 小田原市社会福祉センター内	0465-35-4000	0465-35-6902
茅ヶ崎市社協	〒253-0044 茅ヶ崎市新栄町 13-44 さがみ農協ビル 2 階	0467-85-9650	0467-85-9651
逗子市社協	〒249-0005 逗子市桜山 5-32-1 逗子市福祉会館内	046-873-8011	046-872-2519
	〒249-0006 逗子市逗子 4-2-11 市民交流センター内	046-873-8037	
三浦市社協	〒238-0102 三浦市南下浦町菊名 1258-3 三浦市総合福祉センター内	046-888-7347	046-889-1561
秦野市社協	〒257-0054 秦野市緑町 16-3 秦野市保健福祉センター内	0463-84-7711	0463-85-1302
厚木市社協	〒243-0018 厚木市中町 1-4-1 厚木市総合福祉センター内	046-225-2949	046-222-7440
大和市社協	〒242-0004 大和市鶴間 1-31-7 大和市保健福祉センター内	046-260-5643	046-263-2446
伊勢原市社協	〒259-1131 伊勢原市伊勢原 2-7-31 伊勢原シティプラザ内	0463-94-9600	0463-94-5990
海老名市社協	〒243-0434 海老名市上郷 474-1 海老名市立総合福祉会館内	046-235-0220	046-232-9561
座間市社協	〒252-0021 座間市緑ヶ丘 1-2-1 座間市立総合福祉センター内	046-266-2002	046-266-2009
南足柄市社協	〒250-0105 南足柄市関本 403-2 りんどう会館内	0465-72-2299	0465-74-3276
綾瀬市社協	〒252-1107 綾瀬市深谷中 4-7-10 綾瀬市福祉会館内	0467-70-3210	0467-70-3210
愛川町社協	〒243-0301 愛甲郡愛川町角田 257-1 愛川町福祉センター内	046-285-2111	046-286-5424
清川村社協	〒243-0195 愛甲郡清川村塚ヶ谷 2220-1 清川村保健福祉センターひまわり館 1 階	046-287-1118	046-287-2013
葉山町社協	〒240-0112 三浦郡葉山町堀内 2220 葉山町福祉文化会館内	046-875-9889	046-876-1873
寒川町社協	〒253-0106 高座郡寒川町宮山 401 寒川町健康管理センター内	0467-72-3721	0467-74-5716
大磯町社協	〒255-0003 中郡大磯町大磯 1352-1 大磯町立福祉センターさざれ石内	0463-61-9390	0463-61-7614
二宮町社協	〒259-0123 中郡二宮町二宮 1410 二宮町保健センター 1 階	0463-73-0294	0463-73-0295
中井町社協	〒259-0153 足柄上郡中井町比奈窪 104-1 中井町保健福祉センターしらさぎ内	0465-81-2261	0465-81-2658
大井町社協	〒258-0016 足柄上郡大井町上大井 68-2	0465-84-3294	0465-85-3123
松田町社協	〒258-0003 足柄上郡松田町松田惣領 17-2 松田町健康福祉センター内	0465-82-0294	0465-82-9241
山北町社協	〒258-0111 足柄上郡山北町向原 1379-1 山北町社会福祉協議会内	0465-75-1294	0465-76-4079
開成町社協	〒258-0021 足柄上郡開成町吉田島 1043-1 開成町福祉会館内	0465-82-5222	0465-82-5928
箱根町社協	〒250-0311 足柄下郡箱根町湯本 855	0460-85-9000	0460-85-6888
真鶴町社協	〒259-0201 足柄下郡真鶴町真鶴 475-1 真鶴町老人デイサービスセンター内	0465-68-3313	0465-68-4179
湯河原町社協	〒259-0305 足柄下郡湯河原町城堀 57 番地の 6 町地域福祉センター 1 階	0465-62-3700	0465-62-5150

Memo

はじめてのちいきふくし活動ノート



平成 23 年 3 月発行

神奈川県保健福祉局地域保健福祉部地域保健福祉課 〒231-8588 横浜市中区日本大通 1 ☎045-210-1111 (代表) <http://www.pref.kanagawa.jp/>

社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会 〒221-0844 横浜市神奈川区沢度 4-2 ☎045-311-1425 (市町村社協支援担当) <http://www.knsyk.jp/>

作成助言：杉野 聖子（江戸川大学総合福祉専門学校）

※緊急雇用創出事業臨時特例基金事業